

～カマン SH-2D シースプライト



[QH-50 DASH と→]

本機、SH-2D シースプライトは、1959年に初飛行した米国海軍の多用途艦載ヘリコプターです。米国海軍は、空母を中心とした世界最強の機動部隊を構築していましたが、当時、この機動部隊を脅かす唯一の存在が、ソ連海軍の攻撃型潜水艦でした。そのため、米国海軍は空母をいかに護衛するかに腐心し、この一つの回答が、誘導魚雷をドローンである QH-50DASH(Drone Anti-Submarine Helicopter)に搭載して、機動部隊周囲の海域を哨戒することでした。しかしながら、DASHは無線誘導の無人機であるがゆえに墜落事故も多く、かならずしも円滑に運用されませんでしたから、米国海軍はそれに代わるシステムを模索する必要性がありました。すでにヘリコプターは、救難、偵察など、空母等に搭載されて運用されていましたが、1970年初頭、DASHに代わる対潜業務を含めた初代多用途機 LAMPS(Light Airborne Multi-Purpose System)として、この機体に白羽の矢が立ちました。それ以来、2001年に退役するまで、長年にわたり機動部隊の屋台骨を支えるワークホースとして活躍しました。左舷に多数のソノブイ投下口が配置され、さらに機首下面の大型レーダードームとともに、いかにも対潜職人的な独特の風貌を持っており、個人的にとっても好きなヘリコプターです。

【模型について】

英国エアフィックス社(Airfix)1/72の往年の佳作キットです。1/72では、フジミからも出ていますが、脚周りやローターハブのディテールや雰囲気は、エアフィックスのキットに軍配が上がります。一緒に撮影したDASHは、米国のShapeways社の3Dプリントキットです。オールドキットとニューテクノロジーキットが並ぶ画柄となりました。(中川裕幸 2021年9月)